

令和元年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472000932	事業の開始年月日	平成16年6月1日
		指定年月日	平成28年6月1日
法人名	有限会社 ヒューマンライフサービス		
事業所名	グループホーム 悠悠苑平塚事業所		
所在地	(〒254-0012)		
	平塚市大神2108-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		エント数	2エント
自己評価作成日	令和2年1月31日	評価結果 市町村受理日	令和2年10月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者様に「安心・安全・笑顔のある暮らし」を提供出来る様、介護目標「ゆったりと、待つ介護・寄り添う介護」を目指すために、職員一人一人が自己目標を掲げ、常に意識してケアを行っています。</p> <p>開設から15年、利用者様の高齢化・重度化に伴うニーズに対して、求められる知識と技術を高め、責任を持ってサービスが提供出来る様、研修を行い、ケアの向上に努めています。</p> <p>住み慣れた地域で安心して暮らして頂ける様、また、地域の一人として繋がりが持てる様、地域行事に参加・苑行事に参加して頂く・地域ボランティアの受け入れ等、地域との連携を充実させ、連携を深め、地域の中に自然に存在する「お年寄りの家」を目指しています。</p>
--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年2月17日	評価機関 評価決定日	令和2年4月9日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所概要】</b> この事業所は東海道線平塚駅または小田急線本厚木駅からバスで20分、バス停から徒歩3分程の住宅地にある。併設して同一法人の「居宅介護支援事業所」がある。その他、事業所から徒歩5分程の場所にある同一法人の「デイサービス(悠悠倶楽部)」とは連携しており、利用者との交流や車を出してもらい利用者と遠出することもある。また事業所と合同で「悠悠祭り」を開催しており、地域住民にも参加してもらっている。</p> <p><b>【事業所理念の実践】</b> 理念は「ゆったりと心穏やかに尊厳を大切に笑顔あふれる日々」である。「介護目標」である寄り添う介護を実践している。利用者と接する時は、職員自身が笑顔になり、レクリエーションなどは無理強いないで利用者の気持ちを尊重するようにしている。</p> <p><b>【地域との連携】</b> 事業所開所から15年、地域住民に事業所を知ってもらえており、挨拶などを通して顔なじみの関係である。大神自治会に加入しており、盆踊り等に参加している。事業所の運営推進会議で、どんど焼きの団子を作れる人が少なくなっているという話があった。そこで「自治会のどんど焼き」参加者のための団子を作った。利用者は団子作りに慣れていて上手に丸めてもらった。幼稚園児の訪問や看護学生の実習を受け入れている。月1回、「ひらつか元気応援ポイント事業」のボランティアが訪れて歌や紙芝居などを披露してくれている。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム苑平塚事業所
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の申し送り時に復唱している。また、名札の裏に記載し、いつも確認できるよう配慮している。職員同志で、常日頃から理念に基づき、笑顔で穏やかに過ごせるよう実践に努めている。	理念は「ゆったりと心穏やかに尊厳を大切に笑顔あふれる日々」である。ユニット会議で理念について話し合いをしている。理念の他に「介護目標」があり、それを基に職員は「個人目標」を作成し、実践している。利用者と接する時は職員自身が笑顔になり、レクリエーションなどは無理強いしないで利用者の気持ちを尊重するようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物・散歩時等でお互い挨拶を交わしている。公民館行事・自治会行事・子供みまもり隊等、積極的に参加させて頂いている。また、近隣の幼稚園・保育園との交流・看護学生の実習の受け入れをしている。	大神自治会に加入しており、盆踊り、どんど焼きに参加している。同一法人デイサービスと合同開催の「悠悠祭り」には、地域住民も参加し交流している。幼稚園児の訪問や看護学生の実習を受け入れている。月1回、「ひらつか元気応援ポイント事業」のボランティアが訪れて歌や紙芝居などを披露してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	道路に面して入りやすい併設の居宅支援事業所を窓口にして、地域の方が見学・遊びに来られ案内している。地域ボランティアの受け入れ・地域行事への参加を通して、支援を受けている認知症の方の笑顔を見て頂き理解を深めて頂いている。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1度リビングにて開催、活動報告をしている。構成員と意見交換を行い、災害時の連携・地域との連携等を検討、サービス向上に努めている。</p>	<p>運営推進会議は家族、自治会長、地区社協会長、地域包括支援センター職員、民生委員が参加している。会議の中で、どんど焼きの団子を作れる人が少なくなっているという話があったため、事業所で利用者と一緒に作った。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>平塚市介護保険課より派遣されている相談員を月1回、運営推進会議に包括支援センター職員に参加して頂き、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>利用者が骨折した際、車イス使用の費用について担当職員に相談した。介護相談員が毎月来訪して利用者の話を聞いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行なって、実践している。日中は、玄関を開放し、自由に出入りしている。緊急やむをえない時、一時的に施錠を行う事があるが速やかに開放している。身体拘束の適正委員会を定期的開催、職員に周知している。	「身体的拘束等の適正化のための指針」を策定している。身体拘束適正化委員会を、3か月に1回開催している。職員は議事録を確認して押印している。年1回、身体拘束虐待点検シートにより職員が自己チェックし、職員間で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、自己点検シートで予習・確認、研修を行っている。精神的虐待にならない様、ユニット会議・カンファレンス等で話し合い、声掛けに注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1階で日常生活自立支援事業（1名）を活用しているが、すべての職員が理解するには至っていない。今後研修を行い、個々の必要性を検討して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、ご家族・ご本人に説明し、理解・納得を図っている。改定等の際は、十分な説明を行い同意書を頂いている。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映          利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会・行事参加時等、意見交換を行っている。平塚市介護相談員を月1回受け入れ、ご利用者様の意見・要望を引き出して頂いている。意見箱に設置・苦情相談窓口を玄関などに表示し、いつでも申し出が出来る旨を伝えている。</p>	<p>家族は運営推進会議や家族会(年1回)で意見を出せる場がある。祭り、盆踊り行事には家族も参加し、家族同士が話し合っている。利用者の預り金について、手続きの簡素化の要望があった。要望を受け、事業所が費用を立て替え、利用料と合算するようにした。家族には残金の心配がないと好評である。</p>	
----	---	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回意向調査を行っている。代表者がユニット会議に参加している。管理者は、ユニット会議に於いて、管理者会議の報告をしている。意見や提案の把握に努め、代表者と、管理者・リーダーで運営会議を月1回開催。現状報告・意見や提案を聞く機会を設け、反映している。	法人介護部長も参加する月1回のユニット会議、朝の申し送りなどで職員の意見を聞いている。その他、法人の意向調査時にも意見を出せる。職員から「利用者が重度化すると入浴できない。また職員の負担も大きい」という意見が出た。意見に対応し、機械浴を導入した。	
12	○	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、随時、職員から意見等を聞き、代表者に管理者会議等で要望・意見等、報告し、給与水準等、労働条件・職場環境等、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。また、ユニット会議で研修報告、介護技術等、研修の振り返りを行って実践に役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人開催の研修会に参加して他事業所とのネットワークづくりや同業者開催の勉強会に参加しサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントにおいて、ご本人の要望に耳を傾け、寄り添い話を聞く場を常に設け、安心を確保するための関係づくりを初期プランにあげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期プランを作成する上で、ご家族の希望を十分取り入れる事が出来る様、努めている。面会時や電話により、ご家族等の不安や要望に耳を傾ける機会を作り関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族等の抱える不安・要望を把握し、アセスメントを行い、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を行う事で、役割を持って生活して頂き、食事作り、片付け等で協力し合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の要望等、連絡したり、面会時に本人の以前の暮らし方や思いを聞きケアに反映させる。行事に参加して頂く等、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は、くつろいで頂ける環境を提供出来る様、努めている。馴染みの美容院へ出掛けたり、地域行事への参加、近隣のスーパーでの買い物等で、馴染みの人と交流が出来るよう支援している。	友人の訪問があり、居室などでゆっくりしてもらっている。家族の了承を得て友人と外食に出掛ける方や、家族の協力で馴染みの美容室に通う方がいる。お正月に帰宅して1泊した方もいる。編み物など趣味も継続してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の特徴を把握、テーブルの配置、席等工夫し、楽しく会話出来る様配慮している。出来るだけリビングに来て頂き、体操等に参加して頂いている。レクリエーションへの参加を通して互いの関係づくりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真を贈ったり、管理者・職員が、面会に行ったり電話等で経過を伺うなどして関係を断ち切らない取組を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の希望に添える様、会話や表情の中から意向の把握に努めている。好きな事・趣味等の把握に努めている。また、介護相談員に思い・意向を引出して頂いている。	意向の把握が難しい方は、まず健康状態を見て、寄り添い表情や体の動き、家族の情報などから判断している。把握した情報はケア記録で共有し、ユニット会議時に話し合いをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・ご利用者様との会話から、これまでの暮らしの把握に努め、ご本人が好きだった事、その人らしい過ごし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの対応・会話等、日々の生活の中で、現状の把握に努めている。変化等が見られた場合は、カンファレンス・ユニット会議・申し送り等で情報交換等を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の担当を決め、より細かい観察に努めている。日々の生活状況の中から支援方法を検討、見直しを行う。本人・ご家族の希望を取り入れ、ケアカンファレンスは、全員で行い介護計画を作成している。	介護計画は利用者、家族、職員、医師、看護師の意見を取り入れて作成している。通常の介護計画見直しは、長期が1年、短期6か月でありモニタリングも実施している。3か月と6か月で見直す利用者もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録・生活チェック表、申し送り等で情報を共有し、実践・介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービス・有料老人ホームとの交流、他ユニットとの交流等、必要に応じて対応し支援の幅を広げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、幼稚園等との交流、悠悠まつりの開催等、地域との交流を図っている。また、地域のボランティアの受け入れを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医療により適切な医療を受けられるよう支援している。状態を医師に報告・状況に応じご家族との連携を取っている。また、緊急時においても、速やかに対応して頂いている。	入居前からのかかりつけ医を、継続受診している利用者がいる。協力医以外は家族対応であるが、家族が同行できない場合は職員が対応している。受診結果はケア記録で共有している。内科医が月2回、神経内科医が月1回、歯科医が週1回(必要時は随時)、往診している。看護師は月2回来訪して状況確認をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師と連携を取り合い支援している。月2回、看護師の出勤があり、情報を伝えて相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、サマリーを作成し情報交換を行っている。また、退院指導等に同席させて頂く等、病院側から情報を提供して頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についてのご家族・主治医・管理者で話し合い看取りを行う場合は、同意書を頂いている。主治医をリーダーに、ご家族との連携を密にし、管理者・看護師を中心にチームで支援に取り組んでいる。	契約時、重度化や、終末期について事業所の方針を説明し、家族の同意を得ている。職員は年1回看取りの研修を受けている。医師が終末期の判断をした場合、家族に説明がある。看取りについては「ターミナルケア指針」が整備されている。今年度は3件看取りの実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	見やすい場所に「緊急手順表」が貼ってあり、緊急時に活用している。 定期的な訓練を行っている者もいるが、全ての職員が実践力を身に付けているには、至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	苑内での避難訓練を年2回、実施し、夜間を想定した訓練・風水害時の訓練を行っている。地域との協力体制を運営推進会議の際、話し合っている。近隣者へ避難訓練の参加を呼び掛けている。災害対策委員会を中心に、誘導方法を身に付け、防災意識を高めている。	平成31年3月、地域の子供に病人搬送のモデルになってもらい、夜間想定での避難訓練、防災講座を実施した。同年10月、法人本社職員、デイサービス職員の協力を得て風水害の避難訓練を実施した。災害に備えて水、非常食を職員も含めて3日分、寒さを防ぐ布団、毛布を備蓄している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりを大切に思い、それが伝わるような声掛け、自尊心を傷つけない様な声かけを心掛けていますが、完全とは言えない。個々が認識する・職員間で注意し合う等、声掛けの工夫が必要と思われる。	ユニット会議で接遇について話し合い、不適切な声掛けなどがあった場合は、その都度注意をしている。職員が利用者者にトイレ誘導や排泄確認の声掛けをする際、本人だけに伝わるような声掛けが徹底できていないと管理者の課題となっている。	職員全体で目立たず、本人だけに伝わるような声掛けについて話し合いを行うことが望まれます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、ご本人の意思を引き出せるよう、自己決定できるよう努めているが、全ての職員が出来ているとは言えない、声掛けの工夫が必要と思われる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	健康管理・安全・安楽の確保に留意し、職員側の都合を優先するのではなく、ご利用者様のペース・気持ちに合わせて生活出来る様、ユニット会議等で話し合い、支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら衣類を選んで着ている方もいる。清潔保持が出来る様、声掛けの工夫をし、更衣の促し等を行っている。「おしゃれ」への気遣いや介助で楽しんで頂ける様、援助をしていきたい。			

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いせずに声掛けを工夫し、ご利用様と職員と一緒に準備・片付けを行っている。また、お礼の言葉を必ず掛け、やりがいに繋げている。	献立と食材は専門業者の物を活用し、調理は職員が行っている。行事食は事業所で用意している。誕生日は本人の好みの物を提供している。利用者は盛り付けや片づけ、食器洗いなどできることをしている。	
----	----	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を表にまとめている。水分量の少ない方は、好みの飲み物を提供、補助栄養の提供等、一人ひとりの状態を把握、記録し、統一した支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り・介助等、ご本人の力に応じた対応を行っている。歯科医の訪問医療を受け、口腔管理を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付け、一人ひとりの排泄能力・排泄パターンを把握している。必要に応じた介助を行い、トイレで排泄出来る様、支援している。	排泄パターンを「排泄・巡視・体交チェック表」で把握している。時間や所作を見てトイレ誘導している。昼間は座位が取れる方はトイレでの排泄である。夜間は睡眠を優先して厚めのパッドを使用するなど利用者に応じて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、納豆+オリーブオイル、牛乳・乳製品を取り入れている。個々の状況に応じて、オリゴ糖を使用する・水分を多めに促す、運動・散歩の働きかけを行っている。運動困難な方へも薬に頼らない工夫・食事のペース等気を付けて援助していく。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日・入浴時間を決めず、出来るだけ、希望・状況に応じて入浴が出来る様、配慮している。入りたくないようであれば、無理に勧めず、声掛けの工夫・タイミングに合わせて支援している。</p>	<p>1階の入浴は週2回を基本として、9：00～16：00に入浴してもらっている。入浴が自立の方は週3回の方もいる。温度や時間は利用者の希望に沿うようにしている。2階は重度の方が多く機械浴を導入している。入浴日、時間を決めて調整している。入浴を好まない方には時間を変えたり、職員を変えて対応している。</p>	
----	----	---	--	--	--



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思に任せている。意思を表せない利用者には、様子観察をして、安心して眠れる様、必要に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカードックスにファイルし、一人一人の薬の目的や副作用を理解するよう努めている。薬剤師に随時相談・指導を受けられるようになっている。服薬チェック表を付け、薬の確認・服薬の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事への参加等、一人一人の力を活かした役割を持っている。行事・レクリエーション・音楽鑑賞・散歩・買い物等で気分転換を図っている。また、口腔体操等リードして下さる方、家庭菜園等積極的に取り組んでいる方がいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物・レクリエーション等で外へ出掛けられるよう支援に努めている。地域行事への参加等、ご家族会・運営推進会議・おたより等で協力を要請している。	利用者と近くのスーパーマーケットに、おやつのお買い出しに行っている。車イスで行く利用者もいる。天気の良い日は、敷地内の駐車場で日光浴やボール遊び、歌などを楽しんでいる。初詣、相模川の河川敷での花見、平塚の七夕祭りに出かけている。	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご本人が必要とする物を聞き入れ一緒に買い物に行っている。 お金は、職員が管理しているが、祭りの模擬店等、財布を持ち、ご本人が食べたい物を選び、お金を払っている。</p>		
----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人・友人・ご家族と電話をやり取りしたり、手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を行っている。温度・湿度・匂い等、確認している。 リビングのテーブルの位置等、状況に応じて工夫をしている。 ご利用者様にとって不快や混乱を招かない様、刺激がない様、配慮しているが十分ではない。	リビングは採光が良く明るくなっている。加湿器の使用や窓を開けて換気を適宜行い、空調に配慮している。廊下には、幼稚園との交流会、悠悠祭り、節分、初詣などの行事写真や貼り絵などの利用者の制作物が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所、気の合った者同士が過ごせる場所等、ソファ・椅子・テーブル等で工夫している。外ベンチ等も活用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、ご本人の好みの家具・物品をご本人・ご家族と相談しながら配置している。	居室にはエアコン、照明、クローゼット、スライドレールが備え付けられている。利用者はベッド、テレビ、冷蔵庫、仏壇、家族の写真などを持ち込んでいる。居室の湿度を保つため、家族に加湿器の持ち込みをお願いしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力に応じた寝具（ベット・サイドレール設置・布団）椅子・家具等の設置を行っている。		

事業所名	グループホーム苑平塚事業所
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝の申し送り時に復唱している。また、名札の裏に記載し、いつも確認できるよう配慮している。職員同志で、常日頃から理念に基づき、笑顔で穏やかに過ごせるよう実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物・散歩時等でお互い挨拶を交わしている。公民館行事・自治会行事・子供みまもり隊等、積極的に参加させてもらっている。また、近隣の幼稚園・保育園との交流・看護学生の実習の受け入れをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	道路に面して入りやすい併設の居宅支援事業所を窓口にして、地域の方が見学・遊びに来られ案内している。地域ボランティアの受け入れ・地域行事への参加を通して、支援を受けている認知症の方の笑顔を見て頂き理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度リビングにて開催、活動報告をしている。構成員と意見交換を行い、災害時の連携・地域との連携等を検討、サービス向上に努めている。		

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平塚市介護保険課より派遣されている相談員を月1回、運営推進会議に包括支援センター職員に参加して頂き、協力関係を築くように取り組んでいる。		
---	---	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行なって、実践している。日中は、玄関を開放し、自由に出入りしている。緊急やむをえない時、一時的に施錠を行う事があるが速やかに開放している。身体拘束の適正委員会を定期的開催、職員に周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、自己点検シートで予習・確認、研修を行っている。精神的虐待にならない様、ユニット会議・カンファレンス等で話し合い、声掛けに注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1階で日常生活自立支援事業（1名）を活用しているが、すべての職員が理解するには至っていない。今後研修を行い、個々の必要性を検討して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、ご家族・ご本人に説明し、理解・納得を図っている。改定等の際は、十分な説明を行い同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・行事参加時等、意見交換を行っている。平塚市介護相談員を月1回受け入れ、ご利用者様の意見・要望を引き出して頂いている。意見箱に設置・苦情相談窓口を玄関などに表示し、いつでも申し出が出来る旨を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回意向調査を行っている。代表者がユニット会議に参加している。管理者は、ユニット会議に於いて、管理者会議の報告をしている。意見や提案の把握に努め、代表者と、管理者・リーダーで運営会議を月1回開催。現状報告・意見や提案を聞く機会を設け、反映している。		
12	○	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、随時、職員から意見等を聞き、代表者に管理者会議等で要望・意見等、報告し、給与水準等、労働条件・職場環境等、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。また、ユニット会議で研修報告、介護技術等、研修の振り返りを行って実践に役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人開催の研修会に参加して他事業所とのネットワークづくりや同業者開催の勉強会に参加しサービスの質の向上に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントにおいて、ご本人の要望に耳を傾け、寄り添い話を聞く場を常に設け、安心を確保するための関係づくりを初期プランにあげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期プランを作成する上で、ご家族の希望を十分取り入れる事が出来る様、努めている。面会時や電話により、ご家族等の不安や要望に耳を傾ける機会を作り関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族等の抱える不安・要望を把握し、アセスメントを行い、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を行う事で、役割を持って生活して頂き、食事作り、片付け等で協力し合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の要望等、連絡したり、面会時に本人の以前の暮らし方や思いを聞きケアに反映させる。行事に参加して頂く等、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は、くつろいで頂ける環境を提供出来る様、努めている。地域行事への参加、近隣のスーパーでの買い物等で、馴染みの人と交流が出来るよう支援している。手紙や電話等で連絡出来る機会を設けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の特徴を把握、テーブルの配置、席等工夫し、楽しく会話出来る様配慮している。出来るだけリビングに来て頂き、体操等に参加して頂いている。レクリエーションへの参加を通して互いの関係づくりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	写真を贈ったり、管理者・職員が、面会に行ったり電話等で経過を伺うなどして関係を断ち切らない取組を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の希望に添える様、会話や表情の中から意向の把握に努めている。好きな事・趣味等の把握に努めている。また、介護相談員に思い・意向を引出して頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・ご利用者様との会話から、これまでの暮らしの把握に努め、ご本人が好きだった事、その人らしい過ごし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの対応・会話等、日々の生活の中で、現状の把握に努めている。変化等が見られた場合は、カンファレンス・ユニット会議・申し送り等で情報交換等を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の担当者を決め、より細かい観察に努めている。日々の生活状況の中から支援方法を検討、見直しを行う。本人・ご家族の希望を取り入れ、ケアカンファレンスは、全員で行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録・生活チェック表、申し送り等で情報を共有し、実践・介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービス・有料老人ホームとの交流、他ユニットとの交流等、必要に応じて対応し支援の幅を広げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、幼稚園等との交流、悠悠まつりの開催等、地域との交流を図っている。また、地域のボランティアの受け入れを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医療により適切な医療を受けられるよう支援している。状態を医師に報告・状況に応じご家族との連携を取っている。また、緊急時においても、速やかに対応して頂いている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師と連携を取り合い支援している。月2回、看護師の出勤があり、情報を伝えて相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、サマリーを作成し情報交換を行っている。また、退院指導等に同席させて頂く等、病院側から情報を提供して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についてのご家族・主治医・管理者で話し合い看取りを行う場合は、同意書を頂いている。主治医をリーダーに、ご家族との連携を密にし、管理者・看護師を中心にチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	見やすい場所に「緊急手順表」が貼ってあり、緊急時に活用している。 定期的な訓練を行っている者もいるが、全ての職員が実践力を身に付けているには、至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	苑内での避難訓練を年2回、実施し、夜間を想定した訓練・風水害時の訓練を行っている。地域との協力体制を運営推進会議の際、話し合っている。近隣者へ避難訓練の参加を呼び掛けている。災害対策委員会を中心に、誘導方法を身に付け、防災意識を高めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりを大切に思い、それが伝わるような声掛け、自尊心を傷つけない様な声かけを心掛けているが、完全とは言えない。個々が認識する・職員間で注意し合う等、声掛けの工夫が必要と思われる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら意思や希望等、伝える事の出来ない方もおられる。日常の会話の中、表情等で読み取り、ご本人の意思を引き出せるよう、自己決定できるよう努めているが、声掛けの工夫が必要と思われる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	健康管理・安全・安楽の確保に留意し、職員側の都合を優先するのではなく、ご利用者様のペース・気持ちに合わせて生活出来る様、支援している。忙しさで見失わないよう努力が必要。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら衣類を選んで着ている方もいる。清潔保持が出来る様、声掛けの工夫をし、更衣の促し等を行っている。「おしゃれ」への気遣いや介助で楽しんで頂ける様、援助をしていきたい。		

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いせずに声掛けを工夫し、ご利用者様と職員と一緒に準備・片付けを行っている。また、お礼の言葉を必ず掛け、やりがいに繋げている。温かい食事を提供出来るよう工夫が必要。		
----	----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を表にまとめている。水分量の少ない方は、好みの飲み物を提供、補助栄養の提供等、一人ひとりの状態を把握、記録し、統一した支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・見守り・介助等、ご本人の力に応じた対応を行っている。歯科医の訪問医療を受け、口腔管理を行っている。歯の状態を確認、把握した上で変化に気づける努力を続けていきたい。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を付け、一人ひとりの排泄能力・排泄パターンを把握している。必要に応じた介助を行い、トイレで排泄出来る様、支援している。状態に応じて、負担とならないように気を付けたい。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、納豆+オリーブオイル、牛乳・乳製品を取り入れている。個々の状況に応じて、オリゴ糖を使用する・水分を多めに促す、運動・散歩の働きかけを行っている。運動困難な方へも薬に頼らない工夫・食事のペース等気を付けて援助していく。		



45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴を楽しんで頂ける様、工夫した声掛け・介助を心掛けています。入浴日・入浴時間を決めているが、出来るだけ、希望・状況に応じて入浴が出来る様、配慮している。入りたくないようであれば、無理に勧めず、声掛けの工夫・タイミングに合わせて支援している。</p>		
----	----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思に任せている。意思を表せない利用者には、様子観察をして、安心して眠れる様、必要に応じた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカードデックスにファイルし、一人一人の薬の目的や副作用を理解するよう努めている。薬剤師に随時相談・指導を受けられるようになっている。服薬チェック表を付け、薬の確認・服薬の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事への参加等、一人一人の力を活かした役割を持っている。行事・レクリエーション・音楽鑑賞・散歩・買い物等で気分転換を図っている。また、口腔体操等リードして下さる方、家庭菜園等積極的に取り組んでいる方がいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物・レクリエーション等で外へ出掛けられるよう支援に努めている。地域行事への参加等、ご家族会・運営推進会議・おたより等で協力を要請している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が必要とする物を聞き入れ一緒に買い物に行っている。お金は、職員が管理しているが、祭りの模擬店等、財布を持ち、ご本人が食べたい物を選び、お金を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と電話をやり取りしたり、手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾を行っている。温度・湿度・匂い等、確認している。 リビングのテーブルの位置等、状況に応じて工夫をしている。ご利用者様にとって不快や混乱を招かない様、刺激がない様、配慮しているが十分ではない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所、気の合った者同士が過ごせる場所等、ソファ・椅子・テーブル等で工夫している。外ベンチ等も活用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、ご本人の好みの家具・物品をご本人・ご家族と相談しながら配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力に応じた寝具（ベット・サイドレール設置・布団）椅子・家具等の設置を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 悠悠苑 平塚事業所

作成日 令和2年 10月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	自尊心を傷つけない様な声掛けを心掛けているが、完全とは言えない。プライバシーについて、不適切な声掛けなどがあった場合は、職員が注意し合える関係を作る事を課題としている。	職員それぞれが今年度の目標をたっている。その目標を達成させる。自尊心を傷つけない様な声掛けを心掛ける。	職員が個々の目標を立てている。目標を掲示して、自己目標を常に意識して、目標に向かって取り組んでいく。半年ごとに自己評価・他者評価を行う。	6か月
2					
3					
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。